

台風21号によるセタシジミ資源への影響調査

井戸本純一

1. 目的

2018年9月4日に上陸して京阪神を縦断した台風21号は、琵琶湖の西岸線をほぼ直撃し、湖面に猛烈な南風をもたらした。その後、漁期を迎えたシジミ漁場では著しい不漁を訴える声が相次いだことから、資源状況と台風の影響の実態を把握するため調査を実施した。

2. 方法

2018年11月4日に、台風被害が著しい漁場を主として6月の調査と同様に実際の漁船漁具で採集調査を実施し、結果を比較した。また、後日ビデオカメラを取り付けた調査用桁網を用い、高島（西部）と今西（北部）の漁場で採集と湖底状況の観察を試みた。

3. 結果

実際の漁具による曳網面積1㎡あたりの採捕個数を図1に示した。西部（近江舞子、高島）と北部（今西、長浜）では、禁漁期と成長が盛んな夏季を経ているながら減少または微増にとどまったものの、極端な資源密度の低下はみられなかった。これに対して、台風被害が小さいと思われた東部（磯、石寺）では、漁獲対象ではない殻長18mm未満の小型貝を含めて密度が半減していた。

一方、台風被害が深刻な西部の2漁場と北部の今西では、曳網時に大量の礫や古い貝殻が混入し、その量は漁獲サイズのセタシジミの数十倍におよんだ（図2）。

調査用桁網に取り付けたカメラの映像では、湖底表層は砂や泥に覆われており、礫や貝殻は目立たなかったものの、網にはやはり大量の礫が混入し、網目が細かいためにその比率はシジミの百倍以上に達した（図3）。

以上のことから、これらの漁場では操業が事実上不可能と考えられた。

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。

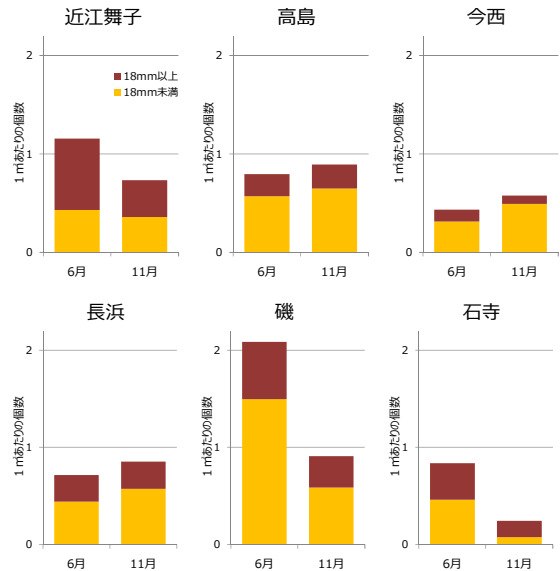


図1 各漁場における台風前後のサイズ別セタシジミ資源密度。

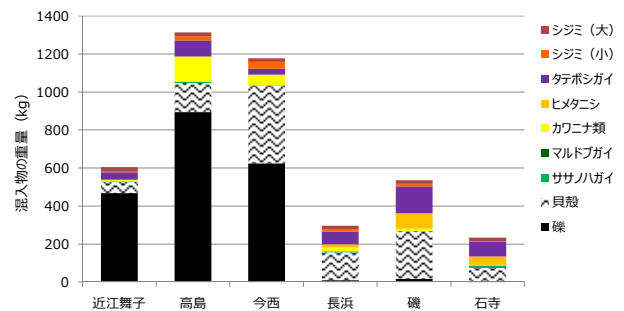


図2 漁獲サイズのセタシジミ20kgあたりに換算した混入物の重量。

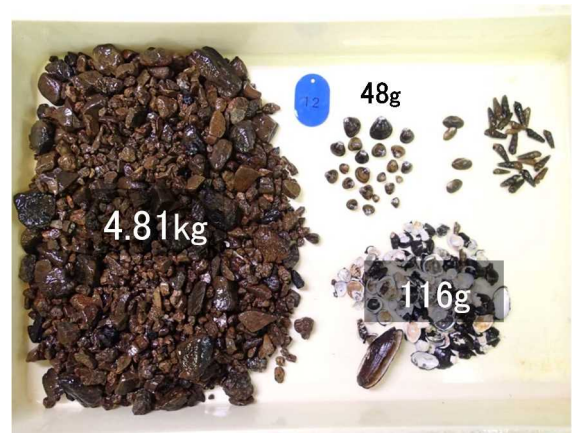


図3 調査用桁網による採集例(高島水深10m地点)。